

技術開発部報告書情報シート

記入年月日:2001年5月3日

情報No.	K-01-4	情報区分	プラ処理協研究報告		
題名 報告書名	高度な脱ハロゲン技術開発調査研究報告書				
報告年月	2001年3月	ページ数	87	著者・出版元	プラ処理協

【キーワード】

処理方式	油化	要素技術	脱ハロゲン、油化、分離・分別
樹脂類別	プラ一般	化学物質名	-
形状別	一般廃棄物	用途別	油化
法規制	容器包装リサイクル法	国別	日本

調査研究内容	<p>脱ハロゲン技術は油化、高炉還元、コークス炉原料化、セメントキルン原燃料化等でもレベルの差こそあれ必須の技術である。一廃系の廃プラスチック中の塩素は 10,000 ppm のオーダーであり、商業化されているケミカルリサイクル技術の脱塩素レベルは、高炉還元、コークス炉原料化、セメントキルン原燃料化は 1,000 ppm のオーダー、油化では 100 ppm のオーダーである。当面のモデルプロジェクトである石油精製工程ヘリサイクル可能とするためには、現在商業化されている脱塩素レベルを1桁あるいは2桁下の数10～数 ppmが要求され、従来技術からブレイクスルーした「高度な脱ハロゲン技術を開発」することを意味する。</p> <p>そこで、脱ハロゲン技術の特許を除いた文献調査と脱塩素・脱臭素技術を合わせた脱ハロゲンの到達レベルを探索する基礎研究を、岡山大学 阪田教授に委託して行った。</p>
調査研究結果	<ul style="list-style-type: none"> ・脱ハロゲン技術の特許を除いた文献調査結果 ・脱塩素・脱臭素技術を合わせた脱ハロゲンの到達レベルを探索する基礎研究 廃プラスチックの熱分解時に加熱スチームと共存させることにより脱ハロゲンレベルの高度化が期待出来るものであり、今後の研究の深化が期待される。
備考	